

富沢寿勇

『王権儀礼と国家：
現代マレー社会における政治文化の原型』
(東京大学出版会、2003年)

あとがきに記されているように、本書は、2002年3月に東京大学大学院総合文化研究科に提出された学位請求論文「現代マレーシア国家における王権儀礼：ヌグリ・スンピランを中心とした人類学的考察」を加筆修正した上で出版されたものである。

本書は、マレー社会における政治文化の原型を探求すること、また現代のマレーシアという国家における王権の位相を明らかにすることを目的としている。著者は、王権儀礼の分析を通してそれらの問題にアプローチするという方法をとっており、それが本書の最大の特徴となっている。

3部に分かれる本書の構成は下記のようなものである。

序章

I 観念の整理と予備的考察

第1章 マレー社会と王権：マレー人とは誰か

第2章 マレー社会における共同体理念の諸潮流

第3章 王権、儀礼、国家の関係

II ヌグリ・スンピラン王権神話・儀礼の考察

第4章 ヌグリ・スンピラン王権神話の神話的構成

第5章 ヌグリ・スンピランの即位儀礼に見られる王権の理念構成

第6章 拝謁儀礼および叙勲儀礼の現代的意味

III 現代マレーシアにおける王権パラダイム

第7章 マレーシア国王制度のローカルな基盤とグローバルな枠組

第8章 国王の就任・即位儀礼を通して見た国家

第9章 「先住民」、中間層、エスニシティと王権結び

本書の内容は以下のように要約できよう。すなわち、第I部は、予備的考察部分で、先行研究で論じられた「マレー人」概念やマレー社会における共同体理念に関する論議が整理・紹介されている。また、東南アジアの王国、国家の特徴について検討を加えている。

第II部は、マレー王権のうち、イギリス植民地期以降のヌグリ・スンピラン王権に焦点をあて、その事例分析を試みている。主たる考察対象は、王権神話と3つの儀礼(即位儀礼、拝謁儀礼、叙勲儀礼)であり、これらの考察を通して王権の理念及び儀礼の現代的意味を論じている。

第 III 部は、第 II 部での事例分析の結果を踏まえた上で、現在のマレーシアの王権へ関心を向ける。そして、国王制度を通して眺めることにより、マレーシアという国家のもつ諸特徴を論じている。まず第 7 章では、マレーシアの国王制度が、ヌグリ・スンピランをモデルとしながら、同時に他の地方の伝統をも汲み上げた上で形成されており、それが現在の国王制度の正統性の基盤となっていることが指摘される。また、支配者会議の最近の動向とそれが国家の展開にもつ意味についても論じている。第 8 章では、即位儀礼の中に州と国家との構造的関係が象徴的に表現されていることを指摘している。そして、第 9 章では、国家レベルにおいても、地方レベルと相似した「先住民」の構造が認められることを明らかにしている。さらに、ブミプトラ政策以降の状況も視野に入れ、マレー中間層の急成長という社会状況を背景とした王権の変容(儀礼の変容と権限の縮小)、またそうした状況下における王権の適応戦略についても検討している。

以上のように、本書は、マレー(あるいはマレーシア)王権を実に多様な角度から論じている。そのもっとも注目すべき点は、著者が政治文化論と現代社会論という 2 つの問題を扱っている点であろう。そうした傾向は A.C.ミルナーの研究にも認められるとはいえ、植民地期以降

の王権を一貫して追究する姿勢をとり、それを 2 つの論議へとつなげている点は、やはり本書独自のものといってよかろう。不思議なことに、東南アジアの伝統的国家論は 1990 年代以降さほど活発には論議されなくなってしまったが、そのテーマに関心をもつ研究者にも、また現代のマレーシアに関心をもつ一般の研究者にも、ぜひ一読をお勧めしたい書である。

なお、著者は、現代のマレーシアという国家の解明に関心を集中しているため、マレー王権の事例分析はヌグリ・スンピラン王権に絞られている。したがって、マレー王権自体により大きな関心を抱く研究者には、本書に加えて、ペラのスルタンの即位を記念して刊行された出版物(例えば、*Kenangan Pertabalan Raja Kita Ke 34, 1986, Taiping*)を読まれることをお勧めしたい。また、ミナンカバウ人などのエスニック・グループの「マレー人化」の過程に関心をもつ研究者には、*Journal of Southeast Asian Studies (JSEAS)*の第 32-3 号に掲載された諸論文またはそれをもとに昨年刊行された Barnard, T.P. (ed.) 2004 *Contesting Malayness: Malay Identity Across Boundaries*, Singapore: Singapore University Press.が参考になる。(西尾寛治)